

令和7年度(2025年度)事業報告書

2024年10月1日から2025年9月30日まで

特定非営利活動法人 アジア失明予防の会

今年度の医療技術指導①は、ハノイではハノイ医科大学病院、ハノイ市立眼科病院、越日眼科病院(民間病院)で行った。ベトナムの地方都市ではハイフォン眼科病院やフエ眼科病院で行い、フエ眼科病院は新築工事が5月に完了し、日本と変わらないような手術ができる外来診療棟も完成し、機材等だけでなく病院全体の引っ越しや電子カルテなどのインストールなどがあることから、本格的な指導は来年度からとしている。ハイフォン眼科病院は2025年6月に訪問した時には手術用顕微鏡がAlcon社の新しい顕微鏡となっていた。この顕微鏡にBIOMIを取り付けて服部医師の指導の下で内視鏡の網膜硝子体手術の適応範囲を少しずつ広げている。医療技術指導②ではハノイ医科大学と京都府立医科大学のMOUにて学術交流が盛んとなり、ハノイ医科大学の医師が京都府立医科大学で研修を受けるなど、大きな成果を上げている。府立医大心臓内科的場教授にはぜひハノイに来てもらいたいとの要望があるなど、この医療技術研修プロジェクトもようやく軌道に乗ってきている。ハイフォン眼科病院からも1名の医師の研修を府立医大で受け入れている。フィリピンでは竹中前学長がMOUを結んできたセントトーマス大学と医療交流については、夜久現学長の思い入れもあり、継続していくという事で決まっているが、事務的には進んでいない。一方、木下医師を中心にタイのチュラロコーン大学と眼科交流が深まり、夜久学長からも称賛を得て、チュラロコーン大学と府立医大間で眼科以外の分野でも交流が盛んとなっている。

治療支援技術指導は、今年度は昨年度以上に大きな変革の年となった。2024年は、予定通り順調にプロジェクトが行われ、12月には大阪府立四條畷高校の生徒6名、教諭2名がボランティア参加した。ただ、3月に予定していたBac Kan省での活動は、テト(旧正月=2月15日)休暇明けに突然中止の連絡があり、大阪国際高校の生徒らが参加予定だったため、ベトナムの事務局のスタッフが必死でDak Lak省と交渉し、眼科部長のCuong医師に「手続き等の費用はすべてこちらで負担するので、お願いしたい」と頼み込み、通常申請には2か月かかる手続きをDak Lak省のCuong医師が人民委員会内の医療保健局等関係部局を奔走してくれたおかげで、出発前のわずか2週間前ではあったが、どうにか許可が下りた。カンボジア国境近くの4か所のディストリクトでスクリーニングを行うと、200名近くの患者さんが集まった。APBAチームはCuong医師と共に精力的に手術を行い、初日は40名、翌日は80名の手術を行った。残った患者さんについては、70個の眼内レンズを残し、Dak Lak省のCuong医師に手術を託した。なお、Cuong医師は貧しい患者さんのために手術を行うことに非常に熱心で、素晴らしい精神を持った医師である。ところで、昨年ベトナム共産党の書記長に新しく就任したTO LAM氏(元公安省大臣)は、これまで行われなかった行政改革に着手した。2025年2月には中央省庁の再編を行い、その後5月の共産党中央執行委員会において、64省(直轄市を含む)を34省(6つの直轄市を含む)に統合することを提案。6月の国会で承認され、7月1日から新しい体制が発足した。APBAのPACCOMからのライセンス(外国NGOがベトナムで活動するための認可)は4月22日に期限を迎えたが、現地スタッフは統廃合前の4月初旬から申請をすでに行っていた。しかし政府再編の影響で手続きは大幅に時間(すべての活動場所の人民委員会からの許可をもらう必要)を要し、最終的にPACCOMから新ライセンスを交付されたのは6月11日となり、これにより予定通り、6月16日からハイフォン眼科病院でのプロジェクトを再開することができた。8月にはバクカン省でのプロジェクトが予定されていたが、行政改革によりBac Kan省はThai Nguyen省に合併したため、実施が困難となり、そのためタイグエン省での実施の依頼を行うと最初は断られたが、現地スタッフよりどうしてもしたいのであれば、スクリーニングに費用が必要だと初めて要求された。本来、このような状況では中止が原則であるが、バクカン省の患者さんの件もあり、横浜いあい眼科クリニックの清水医師をはじめ、看護師やスタッフ、杏林大学の医学生、日本からの高校生、さらにベトナム大学生(以前参加した時は高校生)が参加を希望していたため、事務局のHoaiさんが病院長や医療保健局と交渉し、費用はなかったものの何とか実施することができた。タイグエン総合病院の院長から現在の眼科診療室の建物が古く建て替えが検討されており、そこにアイセンターの設立を頼まれているが、スタッフがこのような態度であるのであれば、アイセンター設立に協力する意欲が薄れざるを得ないが、地方の眼科センターが発展する事はとても大切な事であり、そういう気持ちで協力は惜しまない。フィリピンでの活動は、今年度は日本大使館から医療資機材を寄贈いただいた聖母平和病院眼科センターで、100名の患者さんに対して無償のプロジェクトを行った。ラオスはなし。ミャンマーでは5月からプロジェクト再開の予定であったが、3月の大地震の影響によりマンダレーに大きな被害がでていたが、戒厳令も解除され来年から再開の見通しが立っている。

物資支援事業では、在越日本国全権大使の伊藤大使に昨年面談をして、日本政府の草の根支援無償(SGA)を私どもが回っているどこかの省で在任中に最低1回は実施してもらいたいと再度お願いに伺ったところ、良い案件があったらAPBAの方からご紹介下さいとのことだった。10年以上前にAPBAチームに属していた当時はハノイ国立眼科病院の角膜部の副部長をしていたDong医師がその後角膜部の部長兼副院長となり、2025年6月に院長に就任した。そして、服部医師が日本国際眼科病院を設立して素晴らしい医療を展開し、お互いにライバルの状態であったが、最近日本国際眼科病院を辞めたため、再びハノイ国立眼科病院から若手医師に対して網膜硝子体手術の指導をしてもらいたいと懇願された。これまで寄贈したファイバーテック製の内視鏡の本体が3台あり、まだまだ使用できる状態であったが、現在使っている内視鏡プローブはすでに劣化もひどく解像度も悪いために、耐性の強い20Gのプローブを寄贈した。またフエ眼科病院やハイフォン眼科病院も網膜硝子体手術で私が指導してきた内視鏡を使って手術をしているが、こちらもプローブの劣化がひどく23G内視鏡プローブをそれぞれ1本寄贈した。白内障手術に使用する医療器具については、APBAチームの医療資機材やその他の地域で、破損している器具などを交換した。そして、2022年に服部医師がRamon Magsaysay賞を受賞した時から服部医師の活動にWAMJ財団が賛同して下さり、初年度は寄付金として10,000ドル、今年度は医療機器の助成金として、先のDak Lak省の病院に最新の白内障機器(NIDEK CUBE®)の寄贈を行うことができた。

宣伝広告及び資金集めについては、クラウドファンディングを行った。そして服部医師も企業訪問などにより、少しずつ理解を得て、団体会員を増やす努力をしてきた。ロクシタンジャパンの本社にも訪問し、今年度も引き続きアジア失明予防の会への寄付をしてもらえるようにフランス本社にも掛け合ってきた。Linさんの加入によりMeTa・インスタグラム・TikTokなどのSNSやYouTubeなどを利用して『アジア失明予防の会』の活動を発信してきた。服部医師の講演活動によるPR活動で少額ではあるが、こうした活動により小口寄付金などの資金を集められるようになってきた。そして、今年度はAPBA設立20周年に当たるため、これまでベトナムのプロジェクトに参加協力してくれたベトナム人医師ら全員に声かけを行い、20周年記念パーティーを開催し盛会となった。更に、今後参加協力を引き続き要請した。

2025年度事業報告書

2024年10月1日から2025年9月30日まで
特定非営利活動法人 アジア失明予防の会2 事業の実施に関する事項
(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	予算書 (千円)	支出見込み額 (千円)
医療技術指導①	眼科医療技術の教育・指導・普及や医療技術スタッフの派遣	年度内13回 55日 2024年10月～ 2025年9月	◎ベトナム ハノイ市（ハノイ医科大学付属病院、ハノイ市立眼科病院、日越眼科病院等） ◎ベトナム-ビンフック省、ニントアン省、ダックラック省、タイグエン省における地方医療センター等 ◎フエ眼科病院、ハイフォン眼科病院 ◎フィリピン マニラ 聖母平和眼科センター	10名	ベトナム・フィリピンの医師や看護師など医療スタッフ	10,080	10,091
医療技術指導②	アジア諸国と日本の眼科医療従事者の技術・情報交流の促進	年度内1回	京都府立医科大学	2名	ハノイ医科大学病院1名・ハイフォン眼科病院1名	500	456
治療支援①	貧困により目の治療ができない人々への治療の斡旋・支援や眼科検診などの啓発活動（資材等を含む）	年度内18回 45日 1288名	◎ベトナム ハノイ市・フエ市・ハイフォン市 ビンフック省、ニントアン省、ダックラック省、タイグエン省、 ◎フィリピン マニラ	15名	ベトナム・フィリピンの貧困層の人々	15,580	13,115
治療支援②		年度内0回		0		0	0
物資援助	眼科医療資機材などの提供	年度内4回	ベトナム		地方医療センター、フエ眼科病院	4,500	10,329
広報活動	ホームページ・DVD/レター・企業訪問・講演会やFBによるPR活動・チャリティーパーティーなど	随時公開	日本国内	4名	広く一般に	3,500	3,500